

トリセツ

第14号

トリセツとは…?

— 鳥大説明書 —

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

鳥大資格取得者の声

鳥取大学には取得の難しい資格や珍しい資格を持つ学生がいます。今回、資格取得から何を学んだかなどを知りたいと思い、二人の学生にインタビューを行いました。

interview 01

農学部 生物資源環境学科 2年 服部 夏実さん



Q. どのような資格を持っていますか？

A. 生物分類技能検定3級です。この検定は生物に関する分類の知識向上や調査、保全を担う人材の育成を目的としています。検定では身の周りの動植物や昆虫の生態、見た目等を問われたり、スケッチ課題などが出されたりしました。

Q. どのように勉強しましたか？

A. ひたすら過去問を解いていました。農学部で鶴崎先生が対策講座を開き、過去問の解説をしてくださいました。問題集には詳しい解説が載っていないため参考になりました。

Q. 資格取得から学んだことはありますか？

A. 意外と身の周りのことを知らないものだなと思いました。道端を歩いても雑草を気にしたことはありませんでしたが、全部に名前がついているのかと思う不思議な気持ちになります。

Q. 印象に残った問題はありますか？

A. ジュゴンが食べるものを選ぶ問題です。細かく分類された選択肢のなかにそれらをまとめた名称の海藻があり、ややこしかったです。

服部さんから学ぶ 検定の勉強法

かたっぱしから図鑑を眺めること。植物だと葉の特徴や花の色をまとめて写真や絵で覚えると記憶しやすい。

interview 02

医学部 生命科学科 1年 木村 宇輝さん



Q. どのような資格を持っていますか？

A. 大学受験の時期に英検の準1級を取りました。また、大学に入ってから受けたTOEICでは990点満点中865点を取りました。

Q. どのように英語を勉強しましたか？

A. 大学受験期には、漫画『ワンピース』の英語版を読んでいました。実際の受験問題で麻酔作用という英単語が出てきたときに『ワンピース』の一場面とつながり、自分でも驚きました。

Q. 資格を取得した後、どのようにいかしていますか？

A. 大学の講義ノートのいくつかを英語で書いています。このとき英語の下に和訳を書かないことを意識しています。個人的には医療単語などは漢字で覚えるよりも覚えやすいですね。

驚き！ 木村さんの英語漬けの日々

- ① スマホ、ゲーム、テレビの言語がすべて英語。
- ② 海外の論文をそのまま読む。
- ③ 毎朝BBCニュースの“ONE MINUTES WORLD NEWS”を理解するまで視聴。

インタビューの中で出てきた 木村さんの格言

- ① 資格取得がゴールではなく、重要なのはそのプロセス。
- ② 木があれば登ってみる。猿はそうやって進化した。資格という木に登ってみれば世界観が変わる。
- ③ 英語が役に立たないと思えるのではなく、どのように役立てるかを考えることが大事。

感想

今回二人にインタビューさせていただいて、資格取得に向けての勉強姿勢などを見習いたいと思いました。私も社会福祉主事の資格取得とTOEICの点数を上げることを目指そうと思っているので二人のように頑張ろうと思います。(担当 清藤)

取材を行い資格の取得はやはり大変なことだと感じました。興味のある資格や面白そうと思う資格がある人はぜひ挑戦してみてください。きっと何か得るものがあると思います。(担当 小野)

資格は取得がゴールではなく、その過程が大切なのだと今回二人を取材して感じました。今後自分が資格を取る上で二人の考え方を参考にしたいと思います。(担当 加藤)

鳥大生が挑戦！「魚乙女塾」

皆さんは、魚介類のさばき方や美味しい食べ方を知っていますか？海の幸が豊富な鳥取では、魚食をPRするための番組*「開講！とっとり魚乙女塾」を制作・放送されています。この番組は女子学生が旬の魚をさばき、魚料理に挑戦するもので、シーズン3の第3回目赤イカ編では、鳥大生3人が出演しました。そこで今回は、出演者である地域学部地域学科地域創造コースの柴田梨央さん、前川若菜さん、三好希美さん（学生広報スタッフ）にお話を伺いました！

*「開講！とっとり魚乙女塾」 企画：鳥取県水産課 協力：鳥取県漁業協同組合 制作著作：鳥取県ケーブルテレビ協議会

ととめ座談会

Q. 魚乙女塾の制作に参加したきっかけは何ですか？

柴田：前期に『とっとり早期体験学習』という科目を受講していました。ご担当の地域価値創造研究教育機構の清水克彦先生は後期に『鳥取の海の幸を学ぶ』という講義も担当されていて、そのご縁で今回のお誘いがあり同じ学科の3人で参加しました。

Q. 今回番組で使用したメニューについて、どんなもの考えたか教えてください。

前川：イカの醤油バター焼きと、ねばねばサラダですか。
柴田：それから、炊き込みご飯とゼリー。あと砂糖漬けも考えました。

Q. なぜイカを砂糖漬けにしようと思ったのですか？

柴田：赤イカの醤油焼きなどの一般的な調理方法とは違うもの考えたかったからです。
前川：そうそう。試作の時に、食べてみたら普段食べるスルメイカとは食感が違って、もしかしたらデザートにできるかも！と思って砂糖を加えてみたら、意外と良かったです。
三好：さらにそれをフルーツポンチにしたら、イカのおいが飛んでナタデココみたいになってびっくりしました。

Q. 他に思い入れのある料理はありますか？

前川：ねばねばサラダです！意外とおいしかったですね。漁協職員の方も『ゴマ油で混ぜたらもっといい』と助言してくださいました。おつまみにいいって。

Q. イカをさばいてみてどうでしたか？

三好：とにかく赤イカが大きかったですね。
前川：あと皮をはがすときに、皮が厚すぎて3人とも手が震えました。
一同：(笑)

前川：さばくこと自体が初めてだったのに、いきなり1mほどの巨大なイカをさばいたよね。
柴田：うん、もっと小さいイカから練習したかったかも。でも楽しかったです！

Q. では最後に、魚乙女塾全体を通しての感想等をお願いします。

柴田：普段はネット等でレシピを見て、料理を作ることが多いですが、今回自分たちで考えて作ったことが楽しかったので、これから自炊する際はレシピに頼りっぱなしではなくオリジナリティを出せるようにしたいと思います。あと、出演記念にいただいた包丁で自炊をがんばります！！



▲左から三好さん、柴田さん、前川さん

実際に使われたレシピをご紹介します！

10分 赤イカのおぼろサラダ

材料

- 赤イカ
- オクラ
- ねばりっこ (鳥取県特産の長芋)
- 納豆
- カニかま
- しそ
- 青じそドレッシング



- 【作り方】
- ① オクラを電子レンジ600Wで1分30秒加熱する。
 - ② ねばりっこを5mm×3mmの短冊切りにする。
 - ③ オクラを輪切りに、しそを細切りにする。
 - ④ 赤イカを細く切る。
 - ⑤ ②③④にカニかま、納豆、しそ、青じそドレッシングを入れ、混ぜる。
 - ⑥ 盛り付けて、完成！

5分 赤イカ入りフルーツポンチ

材料

- 砂糖漬けたイカ
- 【材料】赤イカ、砂糖
- 【作り方】(所要時間：1.5時間)
- ① 赤イカをお好みの大きさに切る
- ② 器に入れ、砂糖を全体にかける。
- ③ 冷蔵庫に1時間ほど置く。
- ・サイダー ・缶詰のフルーツ



魚乙女 赤イカ 検索
YouTubeでも配信中

感想

ずっと港町で暮らしてきましたが、あんなに大きなイカを触ったりさばいたりするのは初めてで新鮮でした。魚のさばき方は案外分からないもので、自分で買ってさばこうとはなかなかならないため、いいきっかけになると思います。(担当 三好)

赤イカの意外な調理法を聞き、私も挑戦してみたくまりました。魚乙女塾はテレビ以外に YouTube でも見ることが出来るので、皆さん是非チェックしてください！(担当 大森)

学生広報スタッフ募集中!

●2018年2月発行 ●編集発行/鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ

取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

ge-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp (ご意見・ご感想はこちらまで)

A. 僕たちは機械工作をする上では素人なので、工業機械の技術に関し

Q. 学生だけで車両を製作するとき、技術の面で足りないところも多いと思うのですが、技術習得はどうしていますか？

A. 僕たちは機械工作をする上でも自動車が好きでした。今までは見て楽しむだけだったものを、今度は自分たちの手で作ることができるといふ点で魅力的に感じて、これはぜひやってみたくて入学後すぐに活動に参加しました。他のメンバーもものづくりが好きで、何か作ってみたいというメンバーが多いです。

Q. TUFPPに参加した動機は何ですか？



工学部機械物理系学科2年
おちあい ゆうた
落合 勇太さん
プロジェクトリーダー・フレーム班

工学部機械物理系学科2年
おおだん としき
大段 俊樹さん
広報担当・足回り班・ドライビング統括

A. スポンサー集めに関しては、地域に密着したプロジェクトチームを作りたいという気持ちがあるので、鳥取県内の企業に支援をお願いすることが多いです。鳥取に学生フォーミュラのチームがあるというのを広く知ってもらうために、今年度は風紋祭でマシンにエンジンをかけてTUFPPの存在をアピールしました。鳥取で若者がものづくりを頑張っているという姿勢が伝わって僕

Q. チームの渉外活動について大事にしている点は何ですか？



▲風紋祭でマシンをアピールするメンバー

ては学内にある実習工場の技術職員の方に指導してもらっています。今大会の設計に関しては当時僕たち1年生だけでしたが、バイクメーカーや自動車関連の企業が行っている学生フォーミュラのチーム向けの講習会に参加して専門家の方たちから話を聞いたり、自分たちが勉強したりして実践的に取り組みました。現1年生に関しては僕たちも教えていますし、講習会への参加も積極的に促しています。

Q. 次の大会はどういう大会にしたいですか？

A. 大会での目標が2つありました。1つ目が総合順位30位以内、2つ目が全動の種目の完走です。また、この2つとは別にもう一つ裏の「目標」がありました。それは少なくとも動的審査には必ず出場するというものでもした。チームを存続できるかが、今大会走るか走らないかに大きく関わっていました。マシンが車検にさえ通らず、大会で走れない状況が長く、メンバーの士気も下がりますし、周りの技術職員の方からの厳しい声もあり、今大会は臨むにあたってプレッシャーは大きかったです。結果としては大きなトラブルもなく車検に通ることができました。本目標には届きませんでしたが、動的審査で走ることができたときはすごく達成感がありました。

A. 大会の最後にエンデュランスという種目があり、今年はこちらに挑戦しました。参加できなかったのですが、あとわずかのところで完走できました。

Q. 今回の大会は全体を通してどうでしたか？

私たちを応援してくれる方も増えました。このように意欲的にスポンサー活動に取り組み姿勢が他の企業にPRするのにも強みとなり、うれしい相乗効果が生まれています。僕たちの活動がわずかでも地域の活性化に貢献できたと思っています。

A. 大会では設計者として、製造者として、経営者としての力量を問われます。まさに自動車メーカー全体のロールプレイングみたいなことを1年にわたって行うので、それを大学生のうちから経験できるのはすごく有意義な活動だなと思っています。自分たちでマシンを考えて、作って、実際にそれに乗ることができるといふのは作った人にしか感じることで、できない達成感がありますし、自分たちで作ったものが走るというだけでうれしい気持ちになります。そういう経験ができるだけでもこの活動をやっているだけでいいかなと思います。

Q. 全日本学生フォーミュラに参加することの醍醐味は何ですか？

A. 大会では設計者として、製造者として、経営者としての力量を問われます。まさに自動車メーカー全体のロールプレイングみたいなことを1年にわたって行うので、それを大学生のうちから経験できるのはすごく有意義な活動だなと思っています。自分たちでマシンを考えて、作って、実際にそれに乗ることができるといふのは作った人にしか感じることで、できない達成感がありますし、自分たちで作ったものが走るというだけでうれしい気持ちになります。そういう経験ができるだけでもこの活動をやっているだけでいいかなと思います。

感想

取材中、自分たちの活動について話す彼らの姿は自信にあふれていてとても生き生きとしていました。これからのTUFPPの動向に目が離せません！(担当 上野)

今回の取材では、地域に密着したチームを作りたいという言葉が印象的でした。今後も地域に根差した活動を行っている学生を紹介したいと思います。(担当 津田)



全日本学生フォーミュラ大会の概要

全日本学生フォーミュラ大会とは自動車技術会が主催し、毎年9月に数日にわたり開催されている大会です。車両の開発能力や走行性能だけでなく、プレゼンテーションスキルやマネジメント力といった学生自身のものづくりの総合力を競います。2017年に行われた第15回大会には98チームが参加しました。審査は1000点満点で評価され、その審査内容は大きく次の3つに分けられます。

車検	静的審査	動的審査
車両審査の最初のステップです。主に車両の安全性や大会の規定を順守できているかどうかを判断します。毎年車検をクリアできない参加校も少なからずあり、これに合格しなければ動的審査に進むことができません。	コスト、デザイン(設計)、プレゼンテーションの3点で評価されます。合計点325点。コストは製造者としての能力、デザインは設計者としての能力、プレゼンテーションは団体のマーケティングの能力をみられます。事前資料には細かな規定があり、多くの記述項目があります。	加速やコーナリング性能、耐久性、燃費など車両の走行性能全般を評価します。合計点数675点のうち275点の「エンデュランス」(約22km走行し、車両の耐久性を審査する競技)は全競技中一番大きな配点を占めます。これを完走できるかどうか総順位に大きく影響します。

第15回大会までの1年の流れ

2016年

- 9月 第14回全日本学生フォーミュラ大会
- 10月・11月 前大会のマシンのエンジントラブルの修正
 - 前大会のマシンが車検に通らなかったため、走行テストを繰り返して修正箇所を決定し、問題のあるマシンの一部のみを改良。
- 12月～2月初め 設計開始
 - マシンの製作だけでなく5月、6月には静的審査で用いる資料の締め切りがあり、メンバー総出で作成に取り掛かる。
- 2月初め～6月初め 製作
 - 静的審査で評価される「コスト」に関する資料。なんと約8cmの厚みがあります。▲
- 7月 関西合同試走会
 - 関西地方や中国地方のチームが年に一度集まって行われる関西合同試走会。ここでマシンを走らせるのはチーム創設以降初めてのことであり、大会前にプロの意見を聞くことができる数少ない機会である。
- 7月後半 大学構内で試走
 - 学内での試走はTUFPP初の取り組み。
- 8月後半 鳥取ブレイランドサーキットで最後のテスト走行
 - 試走を繰り返し、より精度の高いパフォーマンスを目指す。
- 9月 第15回全日本学生フォーミュラ大会!!!
 - 大会終了後、メンバー編成があり TUFPPの活動メンバーは実質1年生5人に。

2017年



鳥取大学にTUFPPという学生プロジェクトがあるのを知っていますか？

TUFPP(鳥取大学フォーミュラプロジェクト)はものづくり教育実践センターが主体となって2008年6月に結成され、年に一度開催される全日本学生フォーミュラ大会を目指して活動している学生プロジェクトです。

近年積極的に活動を行い、ますます勢いのある学生プロジェクト、TUFPPを取材してきました。



【部員数】
活動メンバー9名
(他にサポートメンバーとして4名在籍)

【活動内容】
全日本学生フォーミュラ大会の参加に向けて活動している。各メンバーがシャーシ班やドライブレイン班などに分かれてチームを編成。車両の製造にかかわることだけでなく渉外や広報などの総務部門、またプロジェクトリーダーを筆頭にスポンサー活動も積極的に行っている。

最近の活動実績

- 2016年度 第14回全日本学生フォーミュラ大会 総合66位
- 2017年度 第15回全日本学生フォーミュラ大会 総合58位
- 2013年度の大会以来4年ぶりの動的審査に出場

